

てはなりませぬ、まことに嫉けの良否は小兒其もの、幸不幸がわかるるさかえめでございますからしてくれぐれも御推考あつて「こうやればこうなる」こうすればあゝなる」と小兒育成のゆくすえのことを深くかんがへてやらねばなりませんこと、思はれます、實にちよつとの手かげんでまゐるくできるものもかどだつてできますことゆへ、何卒このへんのこととはあしからず御考へになつたが大切なことゝ存じます

子供のはなし。

和田くら

私の世話をして居る幼兒等の多くは中以下の者でございまして入園當時より能く家庭の状況を告ぐる者がございす是等の者の言行を一つ二つ御覽に供してどうか御批評を願ひたいと思ひます

▲さのふ山崎さんと歸り途で奇麗な五錢銀貨を拾

つたから交番へ届け様と思つてうちへ歸つたらお母さんは届けなくとも宜しいと云つて二人に分けてくれました(男五年四ヶ月)

▲晩におばさん所へお嫁さんが来るつてけさうちから鯉節を台に載せてあげたのですよ今に其人がうちに来る時には何か僕にお土産を持ちて來てくれるでせうね(男五、四)

▲うちには三人小僧が居て一番小いのはづるい小僧です何故つてばいつでもお芋やお菓子や豆を買

ひにやるときつと中途で半分位取るから(男五、一〇)

▲共同遊嬉にて一同打雜りて遊び居りしが不圖走り來り「先生袴に水が付いて居ますから拭いてあげませう」と云ひつゝ自分の手巾を取らせし故拭

ひ貰ひぬ(男四、八)

▲おとゝひお祖母さんと一所に買物に行て歸りて

お汗粉を食べたけどもおばあさんは誰にも黙つて居ると云つたが正直に云つた方が宜いと思つてお母さんに云ひ付けたらお母さんはい、子だつて云ひました(男五、九)

▲昨晚六阿彌陀へ行た時女中がうそを云ふと舌を抜かれるつて云つたけれども其んな事はうそです
ねなせみんなが其んなうそを云のでせう(男五六)

▲けさお父さんが火鉢の抽斗からお菓子を出して食べたもんだからお母さんに叱られましたよお父さんとお母さんとどちらが豪いのですか(男五、一〇)

▲僕の小さい時分手を挫いて名倉へ行つたら其處の醫者は療治する時に「あ、鼠が来た、猫が来た」なんてうそを云ひながらなほしてくれたよ(男)

そう私の行く醫者はまだうそを云ひませんよ(女)

(男六、〇)
女五、九)

▲うちの兄さんはいつもお父さんに内々で煙草を吸つて居る所を僕が見付けても云はずに置くした後にお錢を呉るの(男六、三)

▲登園するや或保姆の机中を片付るを見居たりしが急に思出せしが如く「先生月謝はいくらたまつたの」と問ひたり月謝は銀行の人預かり行く(毎月定日に銀行員出張する故)なれば我には知り難き旨話したりければ「そんなら聞てごらんなさい無ければ持て来て上るから」(男五、一〇)

▲此頃はお母さんが病氣でつまらないから毎朝幼稚園へ来る前に觀音様に病氣のなほる様に願つて居るけれども未だなほらないの(男六、五)

▲時々お辨當を麴包にする所をお父さんに見付かると叱られるから此頃はお母さんが内所で麴包に

してくれませすよ(男六、四)